都道府県別賞一等

生命保険の大切さ

青森県　青森市立油川中学校　一学年　笹森　陵佑

僕が中学生になってすぐのこと、祖父がのどのガンになったことを母から聞きました。突然のことだったので、おどろきました。いつも元気だった祖父がガンなんてうそだと思ってしまい、現実を受け入れることができませんでした。祖父の病気を知ったのは、快晴で夕日がきれいな日でした。学校から帰宅すると、すでに帰宅していた母から祖父についての話をされました。

「ジジがのどのガンだって。すぐ手術で入院することになったらしいよ。」

と、母が突然の事態で色々考えているようでした。僕は、心臓が止まるくらいおどろきました。夜になり、父も帰宅し、家族会議が開かれました。内容はもちろん祖父のことについてでした。現状で考えられそうな入院日数や治療方法など、万が一の事態のことを考えた内容でした。その中で、疑問が一つあり、それが「生命保険」でした。父と母が生命保険のことについて、僕の前で話した内容について、初めは理解できずに聞いていました。テレビのコマーシャルで生命保険というのは耳にしたことはあったけど詳しいことはわかりませんでした。モヤモヤが残っていたので僕は母に聞いてみることにしました。

「生命保険ってなんなの。」

と聞くと、母は、

「生命保険はいろんな種類があって、例えば、医療保険とか死亡保険があるんだよ。ちなみに陵佑も生命保険に入ってるよ。生命保険の仕組みはね、保険の契約している人たちみんなが保険料を負担して、もしだれかが死んじゃったり、病気にかかったりしたら、みんなからの保険料を保険金や給付金にしてもらえるんだよ。まあ、いわゆる相互扶助ってやつだね。」

と生命保険について詳しく教えてくれました。教えてくれたおかげで、生命保険の大切さを知りました。そこで、僕は母が生命保険のことをどう考えているのかが気になったので、聞いてみることにしました。

「お母さんは生命保険のこと、どんな感じに考えてるの。」

と、問うと、

「そうだね。生命保険は入って安心するね。」

と、言っていました。僕は、母の話を聞いて、さらに生命保険のすばらしさを知りました。その後、祖父のお見舞に行くために、山形県に帰省しました。病院へ行ってみて、祖父に会えると思っていたら、面会できるのは十五歳以上と言わ

れました。僕は、ショックでした。それに、なぜか悔しかったです。両親によると、祖父は元気だったそうです。その後、祖父は、手術や放射線治療を頑張り、徐々に元気になりました。祖父にまた会えるというのが幸せで、死なないで欲しいです。病気にならないのが一番であるが、人生何がおこるかわからないので、やはり備えは必要だということに気がつきました。生命保険とは、入っていたら安心でき、僕の家族の幸せの絆をつないでくれるものだと気づきました。